

「グレート・バリュー・アワード」 渡辺酒造店が受賞

インターナショナル・ワイン・チャレンジ2016



受賞式に出席した渡辺社長(中央)＝写真は同店提供

ワインと日本酒の国際的な品評会「インターナショナル・ワイン・チャレンジ(IWC)2016」の受賞式が七日、ロンドンで開かれ、その席上で古川町香之町の渡辺酒造店(渡辺久憲社長)が出品した日本酒「小町桜」が、「グレート・バリュー・アワード」を受賞した。

IWCは、ワイン文化の振興や世界各地の優れたワインの販売促進などを目的に一九八四年に創設。世界でも最大規模で権威のある品評会とされているという。日本酒造組合中央会青年部の働きかけにより、二〇〇七年からは日本酒を品評する「SAKE部門」も設置。同部門への参加は年々増え、今年もアメリカ産の日本酒も加わるなど三百四十六社から千

以下で販売している普及品の日本酒の中から、最もコストパフォーマンスに優れているものに与えられる賞。「小町桜」は地元産の酒米ヒタホマレを使い、米を手洗いしたり手作り麹を使い、低温発酵させるなどしたこだわりの商品。一・八リットル千六百円、七百二十ミリリットル七百五十円(いずれも税別)で販売

している。審査員からは「コクがあり、かすかに白い小花、カントロープメロンの香りが感じられる」などと評価された。「地元の方々に長い間親しまれてきた酒ですが、地元だけでなく世界に通用する『ハウスワイン』として認められ感激しましたし、自信が持てました」と受賞を喜ぶ渡辺社長(47)。受賞によって現地で商談を持ちかけられたという。同社の欧州への輸出はまだ実現しておらず、「ビジネスチャンスが開けた」と話す。「これからお値打ちで美味しい酒を追求したい」と話しながら、「SAKE部門」の最高峰である「チャンピオン・サケ」受賞に向けて意欲を燃やしている。